

安全データシート (SDS) ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	1 / 13 頁
----------------------------------	---------------------	-------------

〔作成 2022年5月23日〕

注記) 本製品は成形品のため、材料メーカー発行の SDS や各公的機関の情報を元に、本 SDS を作成しています。一部、製品としては該当しないもしくは、直接適用されるか情報がない記述も含まれますが、安全サイドに考えて掲載致します。

1. 化学品等及び会社情報

化学品の名称 : 製品名を下表に示す

区分	製品名	形状	製品の区分	合金および混合物	物質の区別
防蝕用 亜鉛シート	ZAP シート	板	成形品	純亜鉛	単一物質

供給者の会社名称 : 三井住友金属鉱山伸銅株式会社
 住所 : 埼玉県上尾市二ツ宮 656-1 (〒362-0017)
 担当部門 : 品質保証部
 電話番号 : 048-775-7128
 FAX 番号 : 048-775-7139
 緊急連絡先電話番号 : 048-775-7111 (総務課)



2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	火薬類	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	可燃性エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス類	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性物質および混合物	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性物質および混合物	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性物質	分類できない

安全データシート (SDS) ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	2 / 13 頁
--	-----------------------------------	---------------------------

健康に対する有害性	鈍性化爆発物 急性毒性 (経口) 急性毒性 (経皮) 急性毒性 (吸入：気体) 急性毒性 (吸入：蒸気) 急性毒性 (吸引：粉じん) 急性毒性 (吸入：ミスト) 皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) 特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) 誤えん有害性	分類できない 区分に該当しない 分類できない 区分に該当しない 分類できない 区分に該当しない 区分に該当しない 区分に該当しない 区分 2B 分類できない 区分に該当しない 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない
環境に対する有害性	水性環境有害性 短期 (急性) 水性環境有害性 長期 (慢性)	区分 1 区分 1

GHS ラベル要素
 絵表示又はシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	眼刺激 水生生物に非常に強い毒性 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

この製品を使用する時は、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
 環境への放出を避けること。
 保護手袋、衣類及び眼、顔面用等の保護具を着用すること。
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

【応急措置】

安全データシート (SDS) ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	3 / 13 頁
--	-----------------------------------	---------------------------

皮膚に付着した場合 : 水と石鹸で洗うこと。
 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が持続する場合 : 医師の診断、手当てを受けること。
 漏出物は回収すること。
 火災の場合、適切な消火方法をとること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 施錠して保管すること。

【廃棄】

リサイクルが可能なので回収し、廃棄する場合は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

単一物質・混合物の区別 : 1 項の表に示す。
 化学名 : 1 項の表に示す。
 成分及び含有量 : 下表に示す。
 化学式又は構造式 : なし。
 政令番号 (化管法 (PRTR 制度)・安衛法) : 下表に示す。
 CAS 番号 : 下表に示す。

成分	含有量 (質量%)	政令番号 (SDS 発行対象物質のみ)				CAS 番号
		化管法 (PRTR 制度)		安衛法		
		0.1% ≦	1% ≦	0.1% ≦	1% ≦	
亜鉛 (Zn)	99.99 以上	—	—	—	—	7440-66-6

安全データシート (SDS) ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	4 / 13 頁
--	-----------------------------------	---------------------------

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。 洗い流してから水と石鹸で皮膚を洗浄すること。 医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で数分間、注意深く洗うこと。 次に、コンタクトレンズを着用していて安易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。 医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	速やかに口をすすぎ、直ちに医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	吸入した場合 : 金属味、金属ヒューム熱。症状は遅れて現われることがある。 皮膚に触れた場合 : 皮膚の乾燥 飲み込んだ場合 : 腹痛、吐き気、嘔吐
応急措置をする者の保護	救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用すること。
医師に対する特別注意事項	金属ヒューム熱の症状は、数時間経過後現れる。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水噴霧、泡消火剤、リン酸塩以外（炭酸水素塩類、塩化ナトリウム等）の粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類が適する。 周辺の火災状況に適した消火剤を使用する。容器周辺の火災の場合は、容器を安全な場所に移動する。付近の着火源となるものを速やかに取り除き、着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。 風上から空気を遮断して消火する。
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	水、泡消火薬剤、ハロン、二酸化炭素、リン酸塩粉末消火剤 亜鉛が溶融し、有害なヒュームが発生する可能性がある。また、使用する消火剤によっては水蒸気爆発を起こす場合がある。 不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性又は毒性の煙霧が発生するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。

安全データシート (SDS) ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	5 / 13 頁
--	-----------------------------------	---------------------------

移動不可能な場合は、砂等で拡散を防止し、固体になった後冷却する。

消火活動をおこなう者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業者は適切な保護具（「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガス、ヒュームの吸入を避ける。

経口摂取、衣服への付着等注意する。

ヒュームに注意する。

全ての着火源を取り除く。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

密閉された場所に立ち入る前に換気する。

削屑等の粉末は出来るだけ密閉化し飛散の拡大を防ぐ。

排水等の水溶液は拡散防止のためせき止める。

蒸気の場合発生源を覆う等、発生を抑える。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

大気中に放出しないよう努めるとともに工場外に漏出した際は適切に処理する。

回収、中和

漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化方法及び機材

土壌汚染対策法による規制は無いが、土壌掘削除去が望ましい。

水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。

二次災害の防止策

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

<取扱い>

技術的対策

粉末の場合、「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具（粉じんマスク、手の保護具等）を着用すること。適切な排水処理装置を設置する。

局所排気・全体換気

「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の排気設備を設置し、全体換気を行う。

安全取扱注意事項

端部は鋭利になっているため、素手で触れないこと。粉末の場合は、激しい反応と火災発生の可能性があるため、水と接触させないこと。

安全データシート（SDS） ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	6 / 13 頁
---	----------------------------	--------------------

粉末の場合は、周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

粉じん、ヒュームを吸入しない。

落下させないこと。

眼、皮膚との接触を避け、飲み込んではいならない。

屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。

この製品を使用する時に、飲酒又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

環境への放出を避けること。

接触回避 「10.安全性及び反応性」を参照。

<保管>

技術的対策 荷崩れしないように注意する。

消防法の規制に従う。

混触禁止物質 「10.安全性及び反応性」を参照。

保管条件

湿気、火気の無い場所

酸、塩基、酸化剤から離しておくこと。

亜鉛は酸化被膜により一般的には安定化しているが、金属粉末は急速な酸化により発火爆発する危険性があるので、発火源からの隔離、静電気の蓄積防止対策をすること。

容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。

施錠して保管すること。

容器包装材料 特になし。 消防法及び国連輸送法規に該当する場合は、規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 設定されていない

許容濃度 日本産業衛生学会（2020年版） 設定されていない

ACGIH（2005年版） 設定されていない

設備対策 適切な排水漏洩防止装置、局所集塵装置、局所排気、又は全体換気装置を設置すること。

容器及び受器を接地/結合すること。

防ばくの電気・換気・照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具 呼吸器の保護具

粉末、粉じんの安全対策として防塵マスク（帯電フィルターつき）を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

安全データシート (SDS) ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	7 / 13 頁
----------------------------------	---------------------	-------------

眼の保護具 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用すること。

皮膚及び身体の保護具 保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。

衛生対策 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体（板）
色	光沢のある銀灰色
臭い	無臭
融点／凝固点	融点:419°C
沸点、初留点及び沸騰範囲	沸点:907°C
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	460°C
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に不溶（粉末は水と反応して水素を発生） 酸、アンモニア水、アルカリ水溶液いずれにも可溶
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	logP=-0.47
蒸気圧	0.13kPa（487°C）
密度及び／又は相対密度	7.14g/cm ³
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ （放射性、かさ密度、燃焼持続性）	データなし

安全データシート (SDS) ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	8 / 13 頁
--	-----------------------------------	---------------------------

10. 安定性及び反応性

反応性	金属亜鉛は、乾燥空気中では安定、過熱すると燃焼する。粉末は水と反応し、また酸、塩基と激しく反応し、引火性の高い水素ガスを発生する。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる
危険有害反応可能性	<p>亜鉛粉末は、強力な還元剤であり、酸化剤と激しく反応する。</p> <p>粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉じん爆発の可能性がある。</p> <p>乾燥状態では、攪拌、空気輸送、注入などにより、静電気を帯びることがある。</p> <p>加熱すると、有毒なヒュームを生じる。</p> <p>水と反応し、また酸、塩基と激しく反応し、引火性の高い水素ガスを放出する。</p> <p>イオウ、ハロゲン化炭化水素他多くの物質と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。</p>
避けるべき条件	<p>高温、混触危険物質との接触</p> <p>粉末や顆粒状での空気との混合、乾燥状態での帯電、加熱。</p>
混触危険物質	<p>酸化剤、水、酸、塩基、イオウ、ハロゲン化炭化水素他多くの物質</p> <p>粉末状のものは、イオウ、ハロゲン化炭化水素、水、酸、アルカリ、酸化剤他多くの物質と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。</p> <p>粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉じん爆発の可能性がある。</p>
危険有害性のある分解生成物	<p>有毒なヒューム</p> <p>引火性の高い水素ガス</p>

11. 有害性情報

急性毒性	経口	： 区分に該当しない ラットの LD ₅₀ 値 >2000mg/kg
	経皮	： データ不足のため分類できない
	吸入 (ガス)	： GHS 定義による固体である
	吸入 (蒸気)	： データ不足のため分類できない
	吸入 (粉じん)	： 区分に該当しない ラットの LC ₅₀ 値 >5410mg/m ³
皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない	金属亜鉛のデータは得られないが、酸化亜鉛による影響と同程度であると記載がある。酸化亜鉛による皮膚刺激性はないとの報告がある。
眼に対する重篤な	区分 2B	

安全データシート (SDS) ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	9 / 13 頁
--	-----------------------------------	---------------------------

損傷／眼刺激性	ウサギを用いた試験において、結膜の発赤、浮腫などの軽度の刺激性がみられた。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性 : データ不足のため分類できない 皮膚感作性 : 区分に該当しない : 金属亜鉛のデータは得られないが、酸化亜鉛による影響と同程度であると記載がある。 酸化亜鉛による皮膚刺激性はないとの報告がある。
生殖細胞変異原性 発がん性	データ不足のため分類できない データ不足のため分類できない 国際機関 (ACGIH, IARC, EPA, NTP) では、発がん性を明確に示す疫学的報告が得られないことから亜鉛およびその化合物の発がん性を評価していない。
生殖毒性	データ不足のため分類できない 金属亜鉛のデータが調べた限り見当たらない。亜鉛は必須微量元素であるため欠乏症および過剰症などの生理的機能障害 (皮膚炎や味覚障害、下痢等、貧血等) が誘引される。ヒトにおいて、血中の亜鉛濃度の減少による妊娠合併症の顕著な増加、出生児の低体重などの事例がある。
特定標的臓器全身毒性 (単回ばく露)	データ不足により分類できない ラットを用いた試験において立毛、下痢、呼吸数の減少、眼瞼まひなど軽度の症状はみられたが、濃度が不明である。ヒトにおいて亜鉛ヒュームによる肺、呼吸困難、乾性咳、ヒューム熱等の症状が見られるが、亜鉛ヒュームは金属亜鉛ではなく大部分が酸化亜鉛として存在するため、これらの症状は酸化亜鉛に起因するものと示唆される。
特定標的臓器全身毒性 (反復ばく露)	データ不足のため分類できない 得られた情報からは症状の程度が分類できない。ヒトにおいて、124mg/m ³ /50M ばく露では咳、呼吸困難 (肺、胸部への影響)、2.4mg/m ³ /5Y ばく露では正球性貧血 (normocytic anemia)、ビリルビン、コレステロールへの影響、70mg/kg/10W ばく露では血液学的変化および酵素阻害がみられるとの報告がある。亜鉛は必須微量元素であるため欠乏症および過剰症などの生理的機能障害 (皮膚炎や味覚障害、下痢等、貧血等) が誘引される。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性 水性環境有害性短期 (急性) 区分 1

安全データシート (SDS) ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	10 / 13 頁
----------------------------------	---------------------	--------------

藻類 (*Pseudokirchneriella subcapitata*) において 72 時間 EC₅₀ (生長阻害) = 0.15mg/L との報告がある。

水性環境有害性長期 (慢性)

区分 1

金属化合物であることから、急速分解性はないと判断される。

また、急性分類が区分 1 である。

残留性・分解性	データ不足のため分類できない
生態蓄積性	データ不足のため分類できない
土壤中の移動性	データ不足のため分類できない
オゾン層への有害性	モントリオール議定書の附属書に列記されていないため分類できない

13. 廃棄上の注意

化学品 (残余廃棄物)、当該 化学品が付着している汚染 容器及び包装の安全で、 かつ、環境上望ましい 廃棄、又はリサイクルに 関する情報	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。</p> <p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>
---	---

14. 輸送上の注意

＜国際規制＞	海上規制情報	I M O の規制に従う。
	国連番号	3089
	品名 (国連輸送名)	METAL POWDER, FLAMMABLE, N.O.S.
	国連分類	クラス 4.3
	容器等級	III
	海洋汚染物質	非該当
	MARPOL 73/78 附属書 II および IBC コードによるばら積み輸送 される液体物質	非該当
	航空規制情報	I C A O / I A T A の規制に従う。
	国連番号	3089
	品名 (国連輸送名)	Metal powders, flammable, n.o.s.
	国連分類	クラス 4.3
	容器等級	III

安全データシート（SDS） ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	11 / 13 頁
---	-----------------------------------	----------------------------

<国内規制>	陸上規制情報 海上規制情報 国連番号 品名（国連輸送名） 国連分類 容器等級 海洋汚染物質 MARPOL 73/78 附属書II および IBC コードによるばら積み輸送 される液体物質 航空規制情報 国連番号 品名（国連輸送名） 国連分類 容器等級 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	消防法の規制に従う。 船舶安全法の規制に従う。 3089 金属粉末（可燃性のもの） クラス 4.3 III 非該当 非該当 航空法の規制に従う。 3089 金属粉末（可燃性のもの） クラス 4.3 III 移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の 破損、腐食、漏れのないように積み込み、 荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。
--------	--	--

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質排出把握管理促進法 （化管法）（PRTR 制度）	該当しない
労働安全衛生法（安衛法）	作業環境測定（法第 6 5 条及び第 6 5 条第二項、労働安全施行令第 2 1 条、作業環境測定基準（昭和 5 1 年 4 月 2 2 日労働省告示第 4 6 号））
毒物及び劇物取締法（毒劇法）	該当しない
環境基本法	第 16 条に基づく水生生物保全のための環境基準（生活環境項目） 0.03mg/l（淡水域、特別域とも）、0.02mg/l（海域） 0.01mg/l（海域の特別域）
水質汚濁防止法	排出規制対象物質（法第 3 条、令第 3 条第 7 号） 排水基準（排水基準を定める省令 第 1 条別表第二）

安全データシート (SDS) ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	12 / 13 頁
----------------------------------	---------------------	--------------

水道法	亜鉛量 2mg/l 以下 水質基準 (第 4 条第 2 項 水質基準に関する省令表第 34 号)
下水道法	亜鉛量 1.0mg/l 以下 下水排除制限 (法 12 条の 2、令第 9 条の 4 第 29 号)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 労働基準法	亜鉛量 2 mg/ l 以下 事業者の処理 (法第 12 条、法 12 条の 2) 疾病化学物質 (法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条・別表第 1 の 2 第 4 号 1・昭 53 労告 36 号)
大気汚染防止法	有害大気汚染物質 (法第 2 条第 13 項、環境庁通知)
水質汚濁防止法	生活環境汚染項目 (法第 2 条、施行令第 3 条、排水基準を定める省令第 1 条別表第 2)
消防法	第 2 類可燃性固体、金属粉 (法第 2 条第 7 項危険物別表第 1・第 2 類)
船舶安全法	可燃性物質類・自然発火性物質 (危規則第 3 条危険物告示別表第 1) 可燃性物質類・水反応可燃性物質 (危規則第 3 条危険物告示別表第 1)
航空法	可燃性物質類・水反応可燃性物質 (施行規則第 194 条危険物告示別表第 1) 輸送禁止 (施行規則第 194 条)
港則法	危険物・自然発火性物質 (法第 21 条 2、則第 12 条、昭和 54 告示 547 別表二ト)

16. その他の情報

<参考文献>

- 1) International Programme on Chemical Safety. International Chemical Safety Cards: Zinc powder. Geneva: International Programme on Chemical Safety; 2004.
- 2) 日本産業衛生学会 (2006)
- 3) 許容濃度等の勧告 (2006 年度),
- 4) 産衛誌, 48, 98-123.
- 5) American Conference of Governmental Industrial Hygienists. 2006
- 6) TLVs and BEIs. Cincinnati: American Conference of Governmental Industrial Hygienists; 2006
- 7) Merck & Co. The Merck Index. 13th edition. Whitehouse Station: Merck & Co.; 2001
- 8) International Programme on Chemical Safety. Environmental Health Criteria 221: Zinc. Geneva: World Health Organization; 2001

安全データシート (SDS) ZAP シート/ZAP-ST	SDS No. Zn220523	13 / 13 頁
----------------------------------	---------------------	--------------

- 9) European Union. Summary Risk Assessment Report: Zinc metal. Ipsra: European Chemicals Bureau; 2004
- 10) 三井金属鉱業株式会社 最純亜鉛、亜鉛粒、亜鉛粉 安全データシート (2016/5/10)
- 11) Hazard Communication of Hazardous and Harmful Substances promulgated EU CLP Regulation, AnnexVI
- 12) NITE GHS
- 13) SRC PhysProp Database (2008)
- 14) WHO/IPCS : 「ICSC カード (International Chemical Safety Cards)」 (1994)
- 15) 国際化学物質安全性カード (NIHS) (1994)
- 16) OECD ガイドライン 401
- 17) EU Risk Assessment Report (2004)
- 18) (独) 製品評価技術基盤機構 : 「初期リスク評価書」 (2007)
- 19) 米国産業衛生専門家会議 : ACGIH documentation (2005)
- 20) IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans (2005)
- 21) 米国環境保護庁 (EPA) がんリスク評価ガイドライン (2005)
- 22) 米国国家毒性プログラム (NTP) (2005)
- 23) WHO/IPCS : 「環境保健クライテリア (EHC)」 (No.221, 2001)
- 24) EU Risk Assessment Report (2004)
- 25) 米国国立労働衛生研究所 (NIOSH) : RTECS (2008)
- 26) WHO/IPCS : 「環境保健クライテリア (EHC)」 (2001)
- 27) 岩波理化学辞典 第4版 (岩波書店)

<参考 URL>

- 1) <https://www.nite.go.jp> : 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 HP
- 2) <https://www.env.go.jp/index.html> : 環境省 HP
- 3) <https://www.soumu.go.jp/index.html> : 総務省 HP
- 4) <https://anzeninfo.mhlw.go.jp/> : 厚生労働省 職場のあんぜんサイト

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。

取扱う事業者はこれを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。